



東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NYを拠点に演奏活動を開始。ジュネス・ミュージカル・インターナショナル、および、カーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。

セントルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム〈The Artistry of Junko Ohtsu〉のパブリックTVネットワークによる全米30都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。

国際交流基金派遣にて、ロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。これまでに『ヴァイオリンの詩』、『アメリカ』（1998年、「レコード芸術」誌「室内楽準推薦盤」に選出）、『Prelude to a Kiss』など5枚のCDをリリース。近年は、執筆・講演などの分野にも活動の範囲を広げている。

2002年より、自ら企画・プロデュースする室内楽シリーズ『Good Old Days: アメリカの〈素敵な時代〉』をスタート。日本のクラシック音楽シーンの盲点であった"知られざるアメリカ"にスポットを当てた意欲的な好企画として、大きな注目を集める。

2004年、イラストレーター・和田誠、ジャズピアニスト・佐藤允彦と共に、ジャンルを超えて音楽を楽しもうという意図のもと、『Junko and the Night and the Music』シリーズを開始。3人の異なるバックグラウンドを生かしたユニークな企画は大好評を得ている。

TOMOKO OKADA

東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトに留学。声楽の伴奏と器楽アンサンブルを学び、同校を首席で卒業。

1977年1月、ベルリン・メンデルスゾーン・コンクール:ピアノ・トリオ部門第1位入賞。

同年10月、ジュネーブ国際音楽コンクール:ピアノ・トリオ部門第2位(1位空席)およびスイス特別賞受賞。

現在、アンサンブル・ピアニストとして内外演奏家との共演、CD録音、コンサート・プロデュースなど、多方面に活発な活動を続けている。

HAYAO KAWAI

1928年兵庫県生まれ。臨床心理学者。京都大学名誉教授。京都大学教育博士。2002年より文化庁長官。

1952年京都大学理学部卒業後、アメリカ留学を経て、スイス・ユング研究所にて日本人として初めてユング派分析家の資格を取得し、日本におけるユング心理学の理解と実践に貢献。また、臨床心理学者としての立場から神話や昔話(ファンタジー)の研究を行ない、海外の神話との比較研究、日本文化論などを国内外の講演等を通じて多く発表。

1982年『昔話と日本人の心』で大佛次郎賞、1988年『明恵 夢を生きる』で新潮学芸賞受賞。著作や論文は多数あり、近著として『ナバホへの旅 たましいの風景』、『臨床心理学ノート』、『神話と日本人の心』などがある。1995年紫綬褒章受章、2000年文化功労者顕彰。

MARGOT HALL

マーゴ・ホール

港区南麻布5-5-9
地下鉄日比谷線広尾駅より徒歩6分
有栖川公園・愛育病院はす向かい

